

『東洋研究』第118号  
平成8年1月25日<抜刷>

# インド・グジャラート州の経営者とカースト(II) —南グジャラート商工会議所名簿分析—

篠 田 隆

# インド・グジャラート州の経営者とカースト(II) —南グジャラート商工会議所名簿分析—

篠 田 隆

## 目次

はじめに

### I. 商工会議所の沿革

### II. 会員の地域・業種・カースト分布

おわりに

## はじめに

筆者は現在、グジャラート州の企業家・経営者の研究を諸種の商工会議所の資料に依拠しながら進めている。1992年度に長期海外研究の一環としてグジャラート州に1年間滞在する機会を得た。その際に、商工会議所関連の資料収集を行なった。グジャラート州最大の商工会議所であるグジャラート商工会議所 (The Gujarat Chamber of Commerce & Industry) には州内の主だった商工会議所やマハージャン (Mahajan) と呼ばれる商業団体が300団体余り加盟している<sup>(1)</sup>。同商工会議所から加盟団体のリストを入手し、比較的規模の大きい加盟団体に対して会員名簿や機関誌などの資料の提供を要請した。書面での依頼にもかかわらず、30余りの商工会議所やマハージャンが資料を送付してくれた。このなかには、州内の重要工業都市であるスラト市、ヴァローグラ市、ラージコート市をそれぞれ拠点とする南グジャラート商工会議所 (The South-

ern Gujarat Chamber of Commerce & Industry)、中央グジャラート商工会議所 (The Central Gujarat Chamber of Commerce & Industry)、ラージコート商工会議所 (Rajkot Chamber of Commerce & Industry) も含まれている。

筆者は企業家・経営者とカーストとの関わりに強い関心をもっているので、会員名簿は貴重な資料をなしている。ほとんどの商工会議所やマハージャンは会員名簿を維持しているが、事業体名のみで会員名を記載していない名簿も少なくない。幸いなことに、主要な商工会議所の会員名簿には会員名も記載されているので、現在これらの会員名簿の分析を進めている。すでにグジャラート商工会議所の名簿分析は終了して<sup>(2)</sup>おり、本稿では州内でグジャラート商工会議所に次ぐ重要性をもっている南グジャラート商工会議所の会員名簿分析を行なう。

ちなみに、南グジャラート商工会議所の会員名簿には(1)会員の種類(2)通し番号(3)事業体名(4)代表者名(5)住所(6)電話番号(7)業種の情報が編纂されている。この名簿にはグジャラート商工会議所の名簿にみられるような登録番号(創設時からの登録順に与えられる通し番号)が記載されておらず、また古い時代の名簿も入手できなかったので、本稿の分析は名簿の編纂された1991年時点における横断面分析に限定される。

本稿もまた、多くの知人・友人の協力に負っている。とりわけ、グジャラート開発研究所 (Gujarat Institute of Development Research) のア Nil・グンバル氏 (Anil Gumber) にはコンピュータへの入力・分析に、G. ジャーニー氏 (G. Jani) には南グジャラート特有の姓の分析において多大なる示唆と協力を得ることができた。記して謝意を表する。

## I. 商工会議所の沿革

グジャラートの主要な商工会議所のなかで最もはやく設立されたのが南グジャラート商工会議所 (The Southern Gujarat Chamber of Commerce & Industry) である。同商工会議所は1940年10月21日、スラト市に発足した。ちなみに、現在グジャラート州最大の商工会議所となっているグジャラート商工会議所 (The Gujarat Chamber of Commerce & Industry) がアムダーヴァード市に設立されたのは独立 (1947年) 後の1949年のことである。1941年のスラト市の人口は約17万人、アムダーヴァード市の人口は約59万人であった。1960年のグジャラート州の誕生以降、ボンベイ市—アムダーヴァード市を結ぶ成長回廊に位置するスラト市は工業都市として急速に発展し現在にいたっている。

南グジャラート商工会議所が創立50周年を記念して編纂した「商工会議所瞥見」によると、業種を異にする16名の企業家がスラト市の商工業を保護・育成するために同商工会議所を設立したとされている。当初の名称は「スラト商工会議所」(Surat Chamber of Commerce) であつた。最初の会議は1941年1月17日、R. B. B. J. シャーストリー (Rao Bahadur Bhupatrai J. Shastri) を議長として開催された。この会議でシャーストリーが初代会長に選出された。また、12名の新たな会員申請も認可され、会員数は40名となった。<sup>(3)</sup>その後、同商工会議所の活動内容は多様化し、活動範囲も南グジャラート全域に及ぶようになった。対外的にもその活動は評価されるようになり、民間機関や政府諸委員会への参加要請を受けるようになった。さらに、南グジャラートの工業発展とともに同領域を統括する商工会議所が必要とされ、その結果、1965年10月4日の年次総会で「南グジャラート商工会議所」への名称変更が決議さ

(72)

<sup>(5)</sup>れた。目的・規約を明記した定款も準備された。

会員は商工業および専門職に関わる個人あるいは団体により構成され、会員の種類にはパトロン会員 (Patron Member)、生涯会員 (Life Member)、普通会員 (Ordinary Member) の3種類がある。会員の種類により入会金は異なり、パトロン会員と生涯会員には機関誌やその他の情報が無料で提供される。また、両会員は年会費の納入が免除されている。これに対して、普通会員は年会費を納入する期間だけ商工会議所のサービスを受けることができる。創立以降の年次別の会員数の推移についてはデータを入手していないが、創立50周年すなわち1990年には会員数は2000名に達するであろうと「商工会議所瞥見」には記されている。<sup>(6)</sup>ちなみに、筆者が入手した1991年度の会員名簿<sup>(7)</sup>には2489名の会員についてのデータが編纂されている。同年度における会員数の内訳はパトロン会員248名、生涯会員2152名、普通会員89名である。このうち、傘下商工会議所・マハージャンや専門職団体の会員数は42である。

南グジャラート商工会議所の運営は会長、副会長、書記の三役と事務職員によりなされている。三役は政策決定にあたり、運営委員会から指導を受ける。商工会議所の機能を統括する運営委員会は選出委員、元会長、古参委員、新委員、外部委員により構成され、毎月会合を持つ。この他、諸種の専門委員会が毎年形成され、重要事項に関して運営委員会に対して提言を行なう。専門委員会の委員長には当該事項に詳しい運営委員あるいは専門家が任命されている。<sup>(8)</sup>

南グジャラート商工会議所はインド政府により原産地証明 (Certificate of Origin) の発行主体として認知されている。<sup>(9)</sup>1923年の「税関手続きの簡素化に関する国際協定」(International Convention relating to the Simplification of Customs Formalities, 1923) 第11条項に規定されている原産地証明は輸出業務に不可欠の手続きをなしている。同商工

会議所は州政府や準政府機関にも認知されており、鉄道、郵政、関税、消費税、所得税などに関する政府諸委員会に代表を送り込んでいる。この他、同商工会議所は南グジャラートの製造品を宣伝する目的で、大規模な展示会をこれまでに6回開催している。1957年の第1回展示会にはジャワハールラール・ネーヘル（Jawaharlal Nehru）首相も招待された。その後、1960年、65年、77年、84年にも展示会が開催された。創立50周年を記念する90年の展示会はとりわけ大規模であり、豊富な繊維製品を素材に前衛的なファッションショウも組織された<sup>(10)</sup>。グジャラート商工会議所の機関誌は83年以降廃刊となっているが、南グジャラート商工会議所は月刊誌「繁栄」(Samruddhi)の刊行を継続し、会員に対して政府通告や時事問題に関する情報を提供している。南グジャラート商工会議所は現在、インド商工会議所連盟(The Federation of Indian Chambers of Commerce & Industry: FICCI, New Delhi)、商工会議所連合(The Associated Chambers of Commerce & Industry: ASSOCHAM, New Delhi)、インド商工会議所(The Indian Merchants' Chamber, IMC, Bombay) およびグジャラート商工会議所に加入している<sup>(11)</sup>。

## II. 会員の地域・業種・カースト分布

### 1. 会員の地域分布

南グジャラート商工会議所は当初より南グジャラートの社会経済発展を指向してきた組織であり、会員の圧倒的多数は南グジャラートに分布している。ちなみに、会員総数2489名の96.8%にあたる2409名は南グジャラートに分布している。他地域の会員数比率は中央グジャラートが1.2% (30名)、サウラーシュトラが0.4% (11名)、カッチは0.0% (1名)、

(74)

その他・不明は1.5% (38名) に過ぎない。南グジャラートのなかでもスラト県の比重は格段に大きく、会員総数の95.9% (2386名) を占めている。別稿で検討したように、グジャラート商工会議所は全州を代表する商工会議所とされながらも、南グジャラートからの加盟は僅少であった。南グジャラート商工会議所が南グジャラートの経営者・企業家から圧倒的に支持されてきたこと、換言すると同商工会議所が南グジャラートにおける商工業の振興に十分に貢献してきたことがその理由だと考えられる。

## 2. 会員の業種別分布

1993年の会員名簿には331種類の職業が記載されている。職業の記載は会員の自己申告に基づくために、「商業」や「製造業」などのように具体的な業種が明記されない記載も多い。また、製品名のみを記載するケースも多く、この場合、製造業なのか商業なのか不明である。

表1に、会員の業種別姓頻度別分布を掲げる。ここでは業種分布のなかで頻度の高い業種12種類のみを掲げた。また、会員の姓分析に基づき、会員数の多寡に応じ姓集団を50名以上、5～49名、4名以下の3グループに区分した。会員総数に占める各グループの比率はいずれも30%台である。次節でのカースト分析は頻度すなわち会員数が5名以上の姓集団に限定されるが、ここでは頻度が4以下の姓集団の業種構成についても検討しておく。

業種不明すなわち業種の記載のない会員数比率は分析対象会員数の11.3%である。頻度50以上の姓集団と4以下の姓集団では「業種不明」の会員数比率に約2ポイントの開きがあり、頻度の小さな姓集団の方が業種の記載に無関心な会員数比率が大きい。「その他」には12業種以外の

表1：業種別姓頻度別会員数の分布  
(人数、%)

業種	頻度			計
	50以上	5～49	4以下	
織布業	140 (17.2)	147 (19.0)	151 (16.7)	438 (17.6)
綿布商	30 (3.7)	61 (7.9)	63 (7.0)	154 (6.2)
綿糸商	17 (2.1)	25 (3.2)	19 (2.1)	61 (2.5)
絹糸商	15 (1.8)	20 (2.6)	20 (2.2)	55 (2.2)
金刺繡業	39 (4.8)	10 (1.3)	17 (1.9)	66 (2.7)
染色・捺染業	8 (1.0)	33 (4.3)	17 (1.9)	58 (2.3)
化学染料	23 (2.8)	10 (1.3)	15 (1.7)	48 (1.9)
繊維機械製造業	14 (1.7)	14 (1.8)	25 (2.8)	53 (2.1)
ダイヤ加工業	53 (6.5)	12 (1.6)	13 (1.4)	78 (3.1)
商業	24 (2.9)	12 (1.6)	17 (1.9)	53 (2.1)
税理士	12 (1.5)	17 (2.2)	8 (0.9)	37 (1.5)
協会	21 (2.6)	11 (1.4)	10 (1.1)	42 (1.7)
その他	337 (41.4)	310 (40.2)	417 (46.2)	1064 (42.7)
不明	81 (10.5)	90 (11.7)	111 (12.3)	282 (11.3)
計	814 (100.0)	772 (100.0)	903 (100.0)	2489 (100.0)

(注) 括弧内数値は上段数値の縦列の計に占める比率 (%)。

(出所) The Southern Chamber of Commerce & Industry, *Member List*, Surat, 1991より作成。

(76)

会員数・比率が記されている。「その他」の会員数比率は全体では42.7%であるが、頻度4以下の姓集団の場合は46.2%と半数に近い比率となっている。表に掲げた12業種は頻度5以上の姓集団がより集中する業種といえよう。それでも、これら12業種の会員数比率はいずれのグループの場合も50%を下回っている。

12業種のなかで繊維関連業種は絹糸商、織布業、綿布商、綿糸商、金刺繡業、染色・捺染、化学染料、繊維機械製造業の8業種にわたっており、これら繊維関連業種の会員数比率は全体で37.5%を占めている。とりわけ、頻度5～49名のグループの同比率は41.5%と高い。繊維関連業種とともに南グジャラートの基軸産業となっているダイヤ加工業で優勢なのは頻度50以上のグループである。

地域別の業種構成は確かに異なっているが、南グジャラート以外の諸地域の会員数が僅少なため、有意な比較はできない。大まかに指摘できるのは、中央グジャラートでは繊維関連業種の比率が比較的高いことと、南グジャラート以外にはダイヤ加工業と金刺繡業の会員が存在しないことの2点である。

### 3. 会員とカースト

南グジャラート商工会議所の名簿で姓の記載されていない会員数は167名で、これは会員総数の6.7%を占めている。ちなみに、グジャラート商工会議所の場合は姓の記載のない会員数比率は7.5%である<sup>(12)</sup>。南グジャラート商工会議所の名簿にみられる姓集団は544種類で、その会員数は2322名である。このうち、頻度が5以上の姓集団は76種類であり、その会員数1586名は会員総数の63.7%、姓を記載した会員数の68.3%を占めている。頻度が4以下の姓集団は468種類、会員数は736名である。

ここでは頻度5以上の姓集団を分析の対象とする。宗派・カーストなどの社会的属性と企業家・経営者との関連を分析するために、これら姓集団を以下の8グループに分類し、各グループの特性について検討を行なう。グループ内における姓集団の大小を明確にするために、角括弧内に各姓集団の会員数を表示しておく。

- (1) パーティーダール (Patidar : 1 姓) : Patel [217]
- (2) バニヤー (Vaniya : 28姓) : Agraval [31], Bhatiya [9], Choksi [38], Dalal [17], Doshi [8], Gandhi [58], Jain [29], Jarivala [127], Kothari [8], Kapadiya [84], Marfatiya [31], Modi [32], Parikh [18], Shah [191], Shroff [12], Sheth [18], Sanghvi [11], Thakkar [7], Topivala [6], Vakhania [10], Vakil [8], Zaveri [16], Bhagat [6], Chokhavala [5], Nanavati [11], Somani [6], Sareya [5], Pachchigar [10]
- (3) ブラーフマン (Brahman : 6 姓) : Bhatt [9], Gupta [13], Joshi [6], Trivedi [11], Vasi [5], Nayak [15]
- (4) ラージプート (Rajput : 3 姓) : Chaudhari [6], Parmar [9], Solanki [7]
- (5) 上位諸カースト (Upper Castes : 6 姓) : Bansal [6], Desai [83], Goyal [6], Khambhata [5], Mehta [54], Vora [7]
- (6) 職人カースト (Artisan Castes : 2 姓) : Gajjar [20], Mistri [16]
- (7) イスラーム教徒 (Muslims : 2 姓) : Shekh [8], Vahedkalam [5]
- (8) 分類不能なカースト (Unclassifiable Castes : 28姓) : Gajivala [18], Chanatiya [7], Contractor [5], Halvavala [7], Mahadeviya [6], Mandaliya [6], Shahani [6], Soparivala [8], Vankavala [5], Bodivala [15], Visana [7], Vaghba-krivala [12], Ghivala [8], Hathivala [7], Reshamvala

[18], Tamakuvala [11], Dhamanvala [11], Chevli [32], Mastar [7], Kajivala [6], Motivala [7], Mahatma [6], Sonthaliya [5], Vadivala [5], Swami [5], Shingapuri [9], Sharda [5], Bachkanivala [23]

本稿ではパテール姓の会員をパーティーダールとみなす。他のカーストでパテール姓を使用する場合もあるが僅少とみなす。逆に、たとえばデーサイーなどの姓を使用するパーティーダールも存在するが、腑分けができないので考慮しない。バニヤーはジャイナ教徒とヒンドゥー・バニヤーよりなり、両者の使用する姓はほぼ共通している。他のカースト集団、たとえばパールスィー教徒やイスラーム教徒もバニヤー姓を使用することがある。とくに、金刺織物の製造・販売を「伝統的」職業とするジャーリーワラーの姓はヒンドゥー教徒以外の宗派にも使用されていることが知られているが、ここではジャーリーワラーをバニヤー姓とみなした。ブラーフマンの姓は種類が少ないことに加え、グジャラートでは下位カーストのブラーフマン姓への改姓も大規模には行なわれなかったため、実勢の把握は比較的容易である。上位諸カーストはパーティーダール、バニヤー、ブラーフマン、パールスィー教徒やイスラーム教徒の上層に共用されている姓集団よりなっている。職人カーストとイスラーム教徒の姓も比較的把握しやすい。南グジャラートとりわけスラトには分類不能な姓集団が多数存在している。頻度 5 以上の姓 76 種類のうち 28 種類が分類不能となっている。ちなみに、別稿で分析したグジャラート商工会議所の場合は頻度 5 以上の姓集団 80 種類のうち、分類不能なのは 10 種類のみであった。<sup>(13)</sup>グジャラート商工会議所の会員は中央グジャラートに厚く分布するのに対して、南グジャラート商工会議所はカースト間の流動性の大きいスラトを拠点としているためである。この流動性の大きさは、職業や出身地を表示する接尾辞ワラー (-vala) をと

もなう姓が多用されている点に端的にあらわれている。宗派・カーストなどの出自にかかわらず、一旦商工業に参入すると、その業種を表示するワーラー姓を使用することが南グジャラートでは一般的に行なわれた。彼らの業種および彼らの形成する同業団体の成否が、地域社会における彼らの序列に大きな影響を与えた。ブラーフマンの観念による枠組みよりも経済諸力が社会評価の基準として重視されたためである。このなかで、ワーラー姓の使用は旧来の出自からの脱却と新たなアイデンティティの獲得のための有効な方法であった。分類不能の28姓のうち、15姓がワーラー姓である。頻度4以下の姓集団のなかにもワーラー姓の使用は多数みられる。また、ワーラー姓のみならず、バニヤー姓の多くも商業の特定業種を表示しており、グジャラートではかような姓集団が厚く分布している。

表2：頻度5以上の姓集団に占めるカースト・グループ別会員数の分布  
(人数、%)

カースト・グループ	会員数	計に対する 比率 (%)	総計に対する 比率 (%)
(1)パーティーダール	217	13.7	8.7
(2)バニヤー	812	51.2	32.6
(3)ブラーフマン	59	3.7	2.4
(4)ラージプート	22	1.4	0.9
(5)上位諸カースト	161	10.2	6.5
(6)職人カースト	36	2.3	1.4
(7)イスラーム教徒	13	0.8	0.5
(8)分類不能グループ	266	16.8	10.7
計	1586	100.0	63.7
姓不明/頻度4以下の姓集団	903	—	36.3
総計	2489	—	100.0

(出所) The Southern Chamber of Commerce & Industry, *Member List*, Surat, 1991より作成。

それでは、会員数に占めるカースト・グループ別の比重を検討してみよう。表2にみるように、会員総数の36.3%は姓を記載していないかあるいは頻度が4以下の姓集団よりなっている。頻度5以上の姓集団は会員総数の63.7%を占めるに過ぎず、この比率はグジャラート商工会議所の同比率を約10ポイント下回っている。南グジャラートでは企業家の姓が中央グジャラートよりも多様化しているためである。頻度が5以上の姓集団の会員数に占めるカースト・グループ別の比重ではバニヤーが突出しており、51.2%もの高率を示している。また、分析対象となる76種類の姓集団のうち、バニヤーの姓集団は28種類を占めている。このうち、ジャーリーワラー、トーピーワラー(被り物商)、チョーカーワラー(米穀商)の3姓はワラー姓である。頻度が50以上の大規模な姓集団は全部で7種類あり、このうち、シャー、ジャーリーワラー、カパーディヤー、ガンディーの4姓はバニヤーに属する。バニヤーに次ぐのはパーティーダールであり、分析対象会員数の13.7%を占めている。分析対象の姓集団のなかでパーティーダールを構成するのはパテール姓のみである。パテールは単独の姓集団としては、最大の会員数をもつ。上位諸カーストは6姓よりなり、分析対象の会員数の10.2%を占めている。このうち、デーサイーとメーヘターの2集団は頻度が50以上の姓集団である。郷主職を表示するデーサイー姓は、パーティーダール、ブラーフマン、バニヤー、イスラーム教徒、パールスィー教徒や牛飼いかーストのラバーリー(Rabari)などに使用されている。南グジャラートでデーサイー姓の主体をなすのは、強力な土地所有集団であるアナヴィル・ブラーフマン(Anavil Brahman)やパーティーダールであると考えられる。メーヘター姓はブラーフマン、バニヤー、パールスィー教徒により使用されている。ブラーフマンの会員数比率は3.7%と小さくあらわれているが、アナヴィル・ブラーフマンのように上位諸カーストのグル

ープに括られている会員もいる点に留意する必要がある。職人カーストはサウラーシュトラや中央・北グジャラートでは有力な企業家集団をなしているが、南グジャラートでの商工業への参入は小規模である。ただし、南グジャラートに厚く分布する職人カーストのガンチー (Ghanchi:「伝統的」職業は搾油業) は多様な商工業に参入しているといわれている。ガンチーはワラー姓との結びつきが強いことでも知られており、彼らの実勢は把握できない。イスラーム教徒の比率は0.8%と小さくあらわれているが、上位諸カーストのデーサイー、カンバーター、ウォーラーなどの姓を使用する会員も存在しているものとおもわれる。なお、以上検討した76姓のうち、アーグラールワール、グプター、ゴヤール、シャーハニー、バーンサルの5姓は州外のカーストに特有な姓だと考えられる。グジャラートには優秀な企業家層が厚く分布しており、州外からの企業家の流入は僅少である。ただし、南グジャラートは経営風土がグジャラートのなかで最も開放的なこともあり、州外から少なからぬ経営者が流入している。頻度4以下の会員のなかには州外に特有な姓集団が多数含まれている。

グジャラート州の小規模工業経営者については、業種とカースト・グループの間に一定の相関がみられた。<sup>(14)</sup>南グジャラート商工会議所の場合、業種とカースト・グループがどのように関わり合っているのかを次に検討してみよう。表3にカースト・グループ別業種別会員数の分布、を掲げる。パーティーダール、職人カースト、イスラーム教徒には頻度5以上のすべての姓集団が含まれているが、パニヤー、ブラーフマン、上位諸カースト、ラージプートには集計上の遅延から一部の姓集団が含まれていない。とはいえ、パニヤーについては812名中733名、ブラーフマンは59名中46名、上位諸カーストは161名中137名、ラージプートは22名中9名の情報が編纂されている。ラージプートを除き各カースト・グ

表3：カースト・グループ別業種別会員数の分布

(人数、%)

業種	カースト・グループ								計
	パーティー ダール	バニヤール	ブラーフ マン	上位諸 カースト	ラージ プート	職人 カースト	イスラーム 教徒	その他	
織布業	28 (12.9)	126 (17.2)	1 (2.2)	7 (5.1)	1 (11.1)	4 (11.1)	3 (23.1)	117 (29.6)	287 (18.1)
綿布商	7 (3.2)	39 (5.3)	1 (2.2)	2 (1.5)	—	3 (8.3)	—	39 (9.9)	91 (5.7)
綿糸商	4 (1.8)	21 (2.9)	—	1 (0.7)	—	—	1 (7.7)	15 (3.8)	49 (3.1)
絹糸商	2 (0.9)	25 (3.4)	1 (2.2)	—	—	—	—	7 (1.8)	35 (2.2)
金刺繡業	—	39 (5.3)	—	—	—	—	—	10 (2.5)	49 (3.1)
染色・捺 染業	1 (0.5)	19 (2.6)	—	—	1 (11.1)	1 (2.8)	—	19 (4.8)	41 (2.6)
化学染料	5 (2.3)	11 (1.5)	3 (6.5)	9 (6.6)	1 (11.1)	1 (2.8)	—	3 (0.8)	33 (2.1)
繊維機械 製造業	7 (3.2)	10 (1.4)	1 (2.2)	2 (1.5)	—	2 (5.6)	—	6 (1.5)	28 (1.8)
ダイヤ加 工業	15 (6.9)	31 (4.2)	1 (2.2)	15 (10.9)	—	—	—	3 (0.8)	65 (4.1)
商業	14 (6.5)	12 (1.6)	2 (4.3)	3 (2.2)	—	1 (2.8)	1 (7.7)	3 (0.8)	36 (2.3)
税理士	3 (1.4)	17 (2.3)	1 (2.2)	4 (2.9)	—	—	—	4 (1.0)	29 (1.8)
協会	—	15 (2.0)	1 (2.2)	10 (7.3)	—	1 (2.8)	—	5 (1.3)	32 (2.0)
その他	111 (51.2)	280 (38.2)	32 (69.6)	70 (51.1)	6 (66.7)	20 (55.6)	7 (53.8)	121 (30.6)	647 (40.8)
不明	20 (9.2)	88 (12.0)	2 (4.3)	14 (10.2)	—	3 (8.3)	1 (7.7)	43 (10.9)	171 (10.8)
計	217 (100.0)	733 (100.0)	46 (100.0)	137 (100.0)	9 (100.0)	36 (100.0)	13 (100.0)	395 (100.0)	1586 (100.0)

(出所) The Southern Chamber of Commerce & Industry, *Member List*, Surat, 1991より作成。

ループの分析対象会員数は母数に近似しているため、分析に支障は生じない。「その他」のグループには分類不能な姓集団とバニヤール、ブラーフマン、上位諸カースト、ラージプートの一部姓集団が含まれている。このグループの会員数395名のうち、分類不能な姓集団の会員数は266名である。

表1との比較のために、ここでも全会員の業種分布のなかで頻度の高い業種12種類のみを掲げた。業種不明すなわち業種の記載のない会員数比率はカースト・グループ間に若干の相違はあるが、全体としては分析対象会員数の約11%である。「その他」の会員数比率は全体で約41%となっているが、カースト・グループ別で50%を下回っているのはバニヤールだけであり、他のカースト・グループはいずれも50%を上回っている。バニヤールの会員数が優勢なために、バニヤールの集中する業種が会員全体にとっても頻度の高い業種になっているためである。

8業種により構成される繊維関連業種の会員数比率は全体で38.2%もの高率を示している。カースト・グループ別にみると、バニヤールと「その他」グループの繊維関連業種への傾斜が著しい。分類不能な姓集団を核とする「その他」グループのなかには、バニヤールの会員が多数含まれているものとおもわれる。繊維関連業種のなかで、織布業、綿布商、綿糸商には多様なカースト・グループが参入しているが、絹糸商や金刺繡業の分野ではバニヤールの比重が圧倒的に大きい。バニヤールのなかでも金刺繡業を「伝統的」職業とするジャーリーワラーは、バニヤールの金刺繡業会員数39名中37名を占めている。バニヤールはさらに、税理士などの専門職の分野でも優位に立っている。また、金刺繡業とともにグジャラート州の代表的な輸出産業をなすダイヤ加工業にも進出しており、同業種の会員数ではパーティダールや上位諸カーストを上回っている。

パーティダールは繊維関連業種にも一定程度進出しているが、その

他の業種ではダイヤ加工業の会員数比率が比較的大きい。また、表には示されていないが、製糖業、建設業、木材商の業種では他のカースト・グループに対して会員の絶対数でも優位を示している。ブラーフマンは特定の業種に集中しない分散型の分布を示している。繊維関連業種にはほとんど進出していない。会員数比率の最も大きいのは化学染料と表に掲げられてはいない弁護士の2業種で、それらの会員数比率はともに6.5%である。上位諸カーストも繊維関連業種にはほぼ進出していない。会員数比率の比較的大きいのはダイヤ加工業、協会代表および化学染料の3業種である。協会とは諸種の商工業団体のことである。ラージプートの会員数は小さ過ぎ、業種分布についてなにも言うことはできない。職人カーストとイスラーム教徒については、ともに会員数の約30%が繊維関連業種に分布している。このように、業種構成はカースト間で若干異なっている。しかし、会員数の圧倒的多数は南グジャラートに分布しているために、いずれのカーストの業種構成も南グジャラート地域の産業構造そのものに大きく影響されており、業種構成において特色ある姓集団が若干は存在するものの、カースト間の業種構成の相違は僅少であるとみなすことができる。

## おわりに

商工会議所の会員は商工業の経営者や専門家により構成されている。また、傘下の商工会議所やマハージャンも会員に含まれている。このように、会員が幅広い産業や業種に分布していることは、在地社会と宗派・カーストとの関連をみるうえで利点をなすと同時に、いずれの業種についても会員の構成は網羅的でないという欠点ももつ。また、名簿に編纂されている個別会員の業種名にはあいまいなものが多い。とくに、商業

と製造業の区別が明瞭でなく、これが名簿を分析するうえでの障害のひとつをなしている。以前、グジャラート州政府の編纂した「製造業者名簿」を分析したことがある。これは州内の小規模工業経営者の情報を編纂した名簿であり、商工会議所の名簿よりもはるかに体系的かつ網羅的であった。それを分析した結果、イスラーム教徒、ラージプート、職人カーストなどの特定の宗派・カーストと業種の間には強い相関関係のあることが明らかとなった。商工会議所の名簿のみに依拠したのでは、かような精度の高い分析はできない。有力な同業団体の名簿なども併用し、在地社会における企業家・経営者の社会経済的特性を跡付ける必要があらう。

商工会議所の運営委員会や会員の構成には、在地社会における権力構造の変動が一定程度反映している。企業家・経営者は大規模な土地所有集団や官僚とともに有力な階級のひとつをなしているためである。名簿分析にこだわる理由のひとつは、とりわけ独立以降に顕在化する階級構造の再編のなかで階級とカーストがどのように関わっているのかを、企業家・経営者を事例として実証的に明らかにするためである。これとは別に、商工会議所が在地社会の社会経済発展に果たした役割を明らかにすることも、商工会議所分析の重要な柱のひとつをなしている。本稿では触れなかったが、歴史の古い商工会議所のなかには独立運動や独立後の州再編問題に深く関与したものが少なくない。南グジャラート商工会議所がこれらの課題・問題にどのように対処してきたのかも、いずれ明らかにしたい。

#### 注

- (1) グジャラート商工会議所は1949年にアムデーヴァード市に設立された。全州を代表する商工会議所として設立されたが、会員の大多数は中央グジャラートと北グジャラートに分布している。登録会員数は1990年時点で2万4千人をこえている。

(86)

- (2) その成果は、篠田隆「インド・グジャラート州の経営者とカースト(Ⅰ):グジャラート商工会議所名簿分析」(『大東文化大学紀要』[社会科学]第34号、1996年3月)にまとめた。
- (3) The Southern Gujarat Chamber of Commerce & Industry (以下、SGCCI と略記), *Chamber at A Glance*, Surat, 1990, p.3.
- (4) Ibid.
- (5) Ibid., p.4.
- (6) Ibid., p.5.
- (7) SGCCI, *Member List*, Surat, 1991.
- (8) 運営機構については、SGCCI, *Chamber at A Glance*, op.cit., p.15を参照。
- (9) Ibid., p.8.
- (10) Ibid., pp.9-10.
- (11) Ibid., pp.8-9.
- (12) 篠田、前掲論文、表13。
- (13) 同上、表12。
- (14) 篠田隆「グジャラートにおける製造業の展開とカースト」(柳沢悠編『叢書 カースト制度と被差別民 第4巻:暮らしと経済』明石書店、1995年。